

環境部会

にぎわった夏休みのイベント2題

環境部会長(生11期) 菅田 忠志

楽しかった“海藻押し葉”“貝がら細工”

カンカン照りの須磨海岸で拾ってきた緑や茶色のいろいろな形をした海藻や、各種2枚貝・巻貝、ちょっと変わった石ころが、こどもたちの豊かな感性により、それぞれ自分たちの“宝もの”に仕上がっていく。

平成20年7月22日(日)一の谷プラザと須磨海岸で実施した「夏休み 須磨海岸で遊ぼう!」の誘いに集まった親子40人。今年の猛暑に「長居は危険」と早々に収集作業を切り上げてきたが、しっかり集まった海藻・貝がら・石ころの数々。作業場所の一の谷プラザでは、講師にお招きした「西宮市貝類館学芸員 高田 良二氏」の興味深い説明・解説に耳を傾けた後各自思い思いに作業を開始。はじめのうちは少々戸惑いがちだったこども達も、ちょっとしたヒントで手が進み、帰るときには「宝もの」を手になにこにこ顔。また、やろうね。

須磨海岸では、かつては須磨の裏山から運び出す山土用のベルトコンベアーがあったところに貴重な海辺の植物が残っている。これをテーマに活動された生環8期のみなさんの説明で観賞。収集作業にあたっては須磨区会のみなさんに安全確保の誘導・監視をしていただきました。みなさんありがとうございました。



須磨海岸で収集し、一の谷プラザで作業をする参加者のみなさん



“植物採集をして草花標本を作ろう”

夏休みも押し迫った8月23日(土)、しあわせの村あおぞら周辺で“草花標本づくり”を実施。当日は、ピオトープの会生環3期の坪井 幸子氏の指導で説明と注意事項を聞いた後、ときおりぱらつく小雨を気にしながら、「あおぞら」～「ピオトープ」周辺で植物採集を行う。

「やさしく扱ってくださいよ…」草は根っこもしっかり掘り出し、跡はきちんと穴埋めするのも忘れずに…」昨日の雨が幸いし、スコップを使う土も軟らかい。

持ち帰った草花を水洗いし、作業部屋で標本づくりにかかる。しおりの説明や見本を見ながら悪戦苦闘。完成までには“乾燥”に数日～1週間ほどかかるため、ここではあくまでも乾燥段階前のところまで。

「後は自宅でしっかり仕上げ、夏休みの宿題にしてください。」と指導。

また、別に設けた“おもしろい草木遊び”コーナーでは、草バッタや草笛などに人気が集まり挑戦していた。

いろいろとお世話いただいた「ピオトープの会」のみなさん、サポートをありがとうございました。



上: 採集植物の根洗い作業



右: 採集植物の選択作業

下: 配置、固定作業

いいものができそう…

